



文教協会50年を振り返る⑨

平成16年度 40周年記念事業

文教協会事務局

平成16年は、松尾芭蕉生誕から360年にあたる年であり、文教協会40周年記念事業が開催された年でもありました。この年、大垣市は「おおがき芭蕉生誕360年祭」とし、四季それぞれにテーマを設けて多くの事業を開催しました。その一例として、「奥の細道まちづくりシンポジウム」「元禄芭蕉回廊」「東西全国俳句相撲」等々です。

そんな中、本協会も40周年を迎え、8月6日に盛大に記念式典を開催しました。

本号では記念式典、記念事業等を紹介します。

大垣市文教協会 40周年記念式典

第1部：記念式典

第2部：伝統芸能鑑賞
能へのいざない「はごろも」
吉田潔司氏 吉田篤史氏

第3部：記念講演
～ノーベル物理学賞受賞～
東京大学名誉教授 小柴昌俊氏

その他：記念誌の増補改訂版発行
「郷土大垣の輝く先人」
「文教のまち大垣」

大垣市文教協会設立40周年記念式典
パンフレット

◎ 第1部

大垣市文教協会設立40周年記念式典
(13:00～13:30)

式次第

- 開式の言葉
- 国歌斉唱
- 大垣市長の祝詞
- あいさつ
- 挨拶
- 来賓紹介
- 文教協会20年の歩み
- 感謝状授与

◎大垣市文教協会設立40周年記念誌贈呈に際された功績者
(順不同 敬称略)

※ 改訂・増補版「文教のまち大垣」
編集委員長 高水 通之
編集委員 清水 通 北村 経雄 早野 博之
横藤 茂 高澤 均 日比野伸美

※ 改訂・増補版「郷土大垣の輝く先人」
編集委員長 清水 通
編集委員 横藤 茂 熊崎みさ子 山田 隆雄
高澤 均 安田 徳幸 神谷 善一
新田 安子 関根 敏雄 佐村 聡博
田中 光紀 福川 貴士 西田 長郎

○ 閉式の言葉

◎ 第2部

伝統芸能鑑賞 (13:40～14:10)

能へのいざない
「はごろも」
シテ方藤世法 季織分
吉田 潔司 先生
吉田 篤史 先生

◎ 第3部

記念講演 (14:20～15:50)

演題 やればできる

ノーベル物理学賞受賞
東京大学名誉教授
小柴 昌俊 先生

文教協会報「40周年記念特集号」(平成16年11月号 No.543)には、これまで文教協会の発展にご尽力いただいた山本次能(前教育長)様より、「文教協会に期待するもの」として5つの願いを寄せていただきました。

1. 更に教育尊重の気風を高めたい
2. 教育は人にある
3. 教育のビジョンを追い続けたい
4. 教育のあらゆる機能を一体化したい
5. 文教協会設立の原点に立つ

その願いの中には、いくら時代が変わろうとも色あせることなく、脈々と受けつがれてきた文教の精神があります。

「不易と流行」を追い求めた松尾芭蕉のように今の私たちが真に学ぶべき精神があるのではないのでしょうか。その一部を紹介します。

1. 更に教育尊重の気風を高めたい

大垣は東西文化の接点であり、古くは大垣藩公の文教政策を基盤にして、明治以降歴史の町、文化の町、学問の町として発展してきた。

私は、昭和40年代の前半、恵那の岩村町に赴任した。ここで耳にしたのは「西の大垣、東の岩村」ということばであった。岩村は小藩であったが、佐藤一斉や下田歌子などを輩出し文教尊重の気風がみなぎっていた。西の大垣に負けないぞという気風もあった。とにかく学校を大切に

しよう、先生のいわれることは応援しようという気風があって、先生方は楽しく張り切っていた。すぐれた歴史をもつ大垣は文教の町としての誇りと気風を、どのように受け継ぎ発展させていくかが、現文教協会員の一大使命であろうと思う。

2. 教育は人にある

古くから教育は人にありといわれてきた。小泉総理就任の弁ではないが、あの米百俵の精神こそ、大垣の教育を支える根幹であろうと思う。それには教師ひとりひとりが自信と活力に満ちた教育活動を展開することが大切である。そして心から子どもを愛し、子どもから尊敬される教師群でありたいと思う。(中略)

初代の土屋斉会長には、文教協会の理事会などで、日本、世界の教育、歴史、経済全般にわたって熱弁をふるわれたものである。このお話を聞くのが楽しみでもあった。まさに指導者としての高い資質の持ち主であったと思う。教師の資質をいかにして高めるかが文教の第2の使命であろう。

3. 教育のビジョンを追い続けたい

私は、平成3年に特色ある学校づくりを提唱し、各学校の積み上げてきた伝統を柱に、教育界に誇れる活力ある学校づくりをして欲しいと願った。続いて教育は感動できるという理念のもとに平成5年より学校夢づくり21事業を展開していただいた。こどもの心を育てるには、より多くの感動体験を積ませることが大切だと考えたからである。

各学校は、学校長の指導のもとに、地域の特性を活かした楽しい教育活動を展開していただき、地域は「おらが学校」という雰囲気芽生えて、全面的に学校を支援していただいた。これこそ文教尊重の大きな一歩であると実感したことであった。

～文教協会設立40周年を迎えて、特に教育にたずさわる者は設立の精神に立ち返って、教育尊重の気風の一層の醸成と、大垣らしいおおらかで骨太の教育の推進を願ってやまない。

■小柴昌秀先生の記念講演より■

40周年記念の講演会を計画・立案する中で、講演には、‘時の人’と言われている小柴先生にお願いすることにしました。

先生はノーベル物理学賞受賞者で、東京大学名誉教授の肩書きを持っておられます。それに、岐阜県とは関係が深く、特に飛騨市神岡町のスーパーカミオカンデで指揮をとられ、この度のノーベル物理学賞の基礎・基本を確率された道場でもあったと伺っています。

先生の演題は『やればできる』で、先生の子どもの頃から現在までのエピソードを披露され、「本気でやれば何とかかなる」という持論を展開されました。将来を担う若い世代については「見込みがあると思ったら、責任ある地位に就ければ力を発揮する。」と期待を寄せられました。

会場を埋め尽くした約1000人の聴衆の熱気と、ひとりひとりの胸の鼓動を感じ取ることができ、この講演会がまさに40周年にふさわしい記念行事であったことを痛感いたしました。ご支援いただいた皆様に深甚なる敬意を表したいと思います。

